

留学報告書 ～オレゴンでの8か月～

パシフィック大学オレゴン校
外国語学部生（中期延長）

私は、2019年の8月からアメリカのオレゴン州にあるパシフィック大学オレゴン校に中期留学として行かせて頂きました。出発前は学校については調べていましたがオレゴン州や学校の近くの都市、ポートランドについては全くだった為、知人にポートランドの魅力を聞いた際は驚き、楽しみで仕方がなかったです。空港に着きスーツケースを受け取った後すぐに「パシフィック大学」と書いてある看板を持った方を見つけました。一緒の時間帯に着いたフランスから来た方も一緒にいました。私は学部への留学生や、TAという教師になるための勉強に来る人も居るという事を全く知らなかった為、なぜ英語が話せるのに留学するのだろう、と不思議に思ったことを覚えています。キャンパスへ着き、私達留学生は学期スタートの1週間前に着いた為、ルームメイトはまだ到着していませんでした。

次の日から一週間にも渡るオリエンテーションが行われました。内容はとても魅力的なもので、食事は毎回学校の周りの事を知る為に違ったレストランへ行ったり、バスや、Maxという電車の使い方を学ぶ為に皆で隣町に行ったり、スーパーやショッピングモール、有名な滝へ行ったり、ポートランドへ行ったりと盛沢山でした。ある日には近くにある湖へ行き、カヌーをしました。4人乗りのカヌーで、最初は調子が良かったのですが途中で転覆してしまい、全身びしょ濡れになりました。湖のレスキューの船が来て下さり助けて頂きましたが、着ていた服は全て茶色くなりました。今ではとても良い思い出です。このオリエンテーションの間で、ドイツから来ていた学部留学生の子と仲良くなりました。その子は私が上手に英語を話すことが出来ないのにも関わらず、仲良くしてくれました。

1週間後からついに授業が始まりました。私はESLの授業を取っていて、先生は留学に来ているのだから机に向かって勉強ばかりをするのではなくここでしか出来ない事をしなさい、という方針だった為、内容も課題もそんなに大変ではなかったように感じます。とはいえできるだけ多く学びたいと思い、授業内では発言を多くする事を心がけました。授業後ももし疑問に思ったことがあったらどんな些細な事でもオフィスへ行って質問するようにしていました。空いている時間や休日にはほとんどオリエンテーションの際に仲良くなったドイツ出身の子と一緒に過ごしました。お互いにコーヒーが大好きなので、毎週学校の近くのコーヒーショップへ行ってお互いの事を話したり、相談をしたりしました。私が留学へ行ったタイミングで来たヨーロッパからの学生、またはTAの人たちが多かったのも、その人達に仲良くしてもらっていました。ですがやはり話す内容は私が日本でしていた話とは全く違い、政治や世界の話が良く出てきました。これはヨーロッパからの人達だけではなく、アメリカの人と一緒にです。私より年下だとしても皆政治にとても関心を持っていて、私が今までどれだけ政治に関心なかったかを知りました。また、もっと色々な事に興味を持ち、様々な知識を吸収したいと感じました。



また、留学中には日本ではできない事を多く経験したいと感じた為、パシフィック大学にある Outdoor Pursuit という、気軽にアウトドアスポーツを体験できる機関があったので、時間がある限りたくさん参加しました。アウトドアスポーツのイベントは毎週行われていて、私はラフティング、ハイキング、そしてサーフィンに参加しました。参加したお陰で西海岸の様々な場所へ行くことが出来た様に感じます。道具も場所まで行くバスも全て用意してくれるので、とてもおすすめです。どんなにアウトドアスポーツが初心者でもその機関で働いているパシフィック大学の学生が教えてくれます。その子達は皆同じ年くらいなのですが、どんなことにも挑戦し、様々な環境問題にも率先して考えていてとてかっこよく、また憧れでした。



10月中旬にあった一週間の休みには、そして秋学期終了後の12月中旬から1月の初めまでの2週間半はファームステイというものに挑戦しました。留学へ行く前に先輩がおすめしていたので、絶対に挑戦したいと思っていました。1回目はEugeneという市に行き、1週間部屋を貸して頂いた方のガーデニングの手伝いをしました。Wi-Fiが無いと携帯電話が使えないという状況だったので目的地に着くかさえも不安でしたが人に聞きまわりながら到着する事が出来ました。主にハーブの採集や草むしりをし、1週間でしたが良い経験だったと感じます。2回目にはオレゴン州の上にあるワシントン州の中のChehalisという町にある家へ行きました。そこは町から車で30分の場所にあり、インターネット環境が全く無い場所でした。紹介文には「いいネット環境は無い」とだけ書いてあったのでWi-Fiはあるだろうと思っていましたがそれも無く、全くインターネットが使えない環境でした。私は余りインターネットを使いませんが、家族や学校へメッセージを送りたい時もあったので、毎朝行っていたランニングで3km先まで行き、数分で通知を確認、返信し帰るという事を行っていました。ですがインターネットデトックスをするきっかけにもなり、良い経験だったと思います。Chehalisでは主に野菜や果物の世話や薪割り等を行いました。そこにはミズーリ州出身の女の子も一人いて、その子と仕事をする中でとても仲良くなりました。浅い話から深い話までし、彼女の考え方にとても惹かれました。2歳程しか歳は変わらないのですが、自分が今将来のために何をすべきかが分かっており、そして決断力、行動力がある強い女性でした。私も彼女のように芯を持ちブレない女性になりたいと感じました。彼女は私の先生のような存在で、英語はもちろん、料理、編み物、食べ物や植物、動物についてなど多くの事を学びました。彼女のおかげで様々な知識、興味を増やすことが出来ました。永遠に連絡を取り続けたいと思える存在です。

春学期からは寮を離れ、学校から徒歩15分の場所にある家でホームステイを始めました。最初の予定では12月には帰国するつもりだったのですが、10月に入った時に、もし可能ならば私はこの12月で帰るべきではない、もっと成長をしなければいけないと強く思い、学校、そして家族と何度も相談をし、自分の気持ちを伝え、延長する事を了承して頂きました。そんな中新しく始まった生活は今までとは全く正反対の生活で、70歳のおばあちゃんの家に一匹の猫ともう一人以前から住んでいたハワイ出身の学部生の子と暮らしました。その、私のおばあちゃんであり母のような存在のホストマザーは、私たちに本当の家族の様に接してくれ、毎日の様に愛を伝えてくれる、とても一緒にいて落ち着く方です。ホストマザーは友達が多く、家に毎日の様にホストマザーのお友達が来ていたので、沢山の方と話す機会を作ってくれました。春学期の授業は前学期よりもハードなものが多く、また学部生の日本語授業のアシスタントボランティアもさせて頂いたので毎日忙しい日々を送っていました。特に忙しく、そして楽しかったのはフラダンスの練習です。パシフィック大学では毎年4月に、アメリカ内でもトップを争う程大きいハワイのお祭り、「ルアウ」が行われます。その中でこの大学の学生の大部分を占める、ハワイ出身の生徒はフラダンスを踊るのですが、私はいつかこのフラダンスに挑戦してみたいと思っていた為、ハワイアンクラブに入り、練習に参加することを決めました。私は2つのダンスを踊ることに決めた為、週に4回レッスンが入りました。周りの子はハワイ出身で、皆小さい頃から行っている為とても上手で、当日皆の様に踊れるかとても不安でした。練習や授業で忙しかったですが、とても充実し、楽しかったです。ですが本番まであと数週間という時に全米中にコロナウイルスが広がり、ルアウは中止となってしまいました。予想外の事が起こり、私には「また来年」というものが無い為、悲しさと悔しさと涙が止まらなかった事を覚えています。その後授業はオンラインになり、ついに強制帰国となってしまった為、この留学の最後は私が望んでいた終わり方とは全くの正反対でした。しかし、最後が短くなってしまった春学期の中でもその様なことは関係ないくらいに多くの事を学び、成長できたと感じ

ます。友達とは多くの場所へ行き、本当の家族の様なホストマザーに出会い、フラダンスに挑戦しました。最後お世話になった人達とのお別れは、今までに経験したこと無いくらいの悲しみでいっぱいでした。

この盛沢山の留學生活の中で想像以上に成長することが出来ました。また自分の価値観や考え方も大きく変わりました。今後多くの壁があると思います。しかしこの留學生活で得たものをまだまだ伸ばし、自分の強みにして頑張っていきたいと感じます。たくさん悩み成長したこの期間をパシフィック大学、又オレゴンで送る事ができ本当に良かったです。

